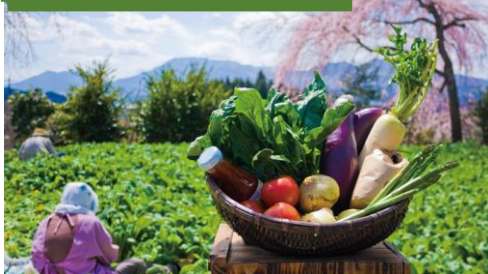


阿蘇の草原の維持と持続的農業

～継続はタカラ～



多彩な農林産物



阿蘇は、農地改良の結果、トマトや米等多様な農産物の生産が盛んに行われています。また、小国杉は全国的なブランドとして知られています。

阿蘇の持続的な草原管理システム



野焼き→放牧→採草のサイクルにより、阿蘇独自の持続的な管理サイクルが確立されていることで阿蘇の草原が維持されています。



阿蘇市 高森町
南小国町 南阿蘇村
小国町 西原村
産山村



世界農業遺産
平成25年5月認定

熊本県阿蘇地域

阿蘇の広大な草原は、野焼き、放牧・採草という農業上の利用により千年もの長い間維持されてきたもので、この営みを通じて地域固有の文化、生物多様性、景観が形成され、今も多様で豊かな資源が守られています。

生物多様性と生態系機能

持続的な農業システムにより、阿蘇では、数多くの希少種が保存されています。



農業と関わりの深い伝統文化

阿蘇には多くの農耕祭事があり、阿蘇山火山による被害を鎮め豊作を願う人々の営みの様子が表されています。



優れた景観と水の恵み

阿蘇は広大なカルデラを形成し、水源涵養機能（草原、森林等）により北部九州の「水がめ」と呼ばれています。



阿蘇の草原が支える循環型農業システム

野焼き・放牧・採草がつくる持続可能な阿蘇の農業と景観



阿蘇の草原は、自然の循環と人の営みが調和した、かけがえのない財産です。

世界農業遺産認定による効果

農林畜産業の振興

阿蘇産農産物等の消費拡大

- ・県内外を問わず、阿蘇産農産物等の消費拡大を促進するため、様々なイベントを実施。
- ・6次産業化に取り組む団体や農業遺産を活用した周知・啓発・PRに取り組む団体へ支援を実施。

▲阿蘇地域世界農業遺産フェア
▼トマトケチャップ



- 阿蘇市での「阿蘇地域世界農業遺産フェア」の開催 (R7)
- 世界農業遺産「阿蘇あか牛」肉料理認定店制度開始 (R7～)
- 熊本県庁でのマルシェの開催 (R6～)
- 阿蘇産ミニトマトを活用したトマトケチャップ、トマトジュースの商品開発 (R7)
- 阿蘇産米を活用した甘酒の商品開発 (R6)

など

交流の拡大

各種イベントによる交流人口の増加

- ・交流人口の拡大を目的に、「阿蘇地域世界農業遺産フットパスコース」を作成。地元ガイドの協力もあり、阿蘇地域の景色や暮らし、文化を体感できるイベントを実施。
- ・県内外におけるPR活動はじめ、他認定地域と連携したイベントやクイズイベント等幅広く実施。

▲フットパスイベント
▼九州世界農業遺産フェア



- 阿蘇市手野地区にある国造神社周辺でフットパスイベントを実施 (R6)
- 九州世界農業遺産フェアへの出展 (R7)
- くまもと農業フェアへの参加 (R7)
- 阿蘇市で開催された地域づくりセミナーでの取組報告 (R7)
- 休暇村南阿蘇従業員SDGs研修講師対応 (R7)

など

草原・景観の保全

野焼き→放牧→採草サイクルの保全

- ・野焼きに取り組む団体への支援を実施。
- ・草原・景観維持にも寄与する繁殖あか牛導入への支援を実施。
- ・採草活動や茅刈り活動についても支援を実施し、地域経済にも寄与。

景観の保全

- ・阿蘇の風物詩でもあった草小積み再生への支援を実施。

- 野焼きに必要な防火帯整備への支援
 - 繁殖あか牛導入支援: 121頭
 - 採草活動支援: 約446ha
 - 草小積み再生支援: 60基
- ※過去3年分 (R5～R7) の実績



▲草千里ヶ浜の野焼き



▲草小積み

阿蘇から世界へ

2025年大阪万博のパビリオンに

- ・2017年から「阿蘇の茅材」の商品化と野焼きのリスク軽減を目的に「茅刈りプロジェクト」を実施。
- ・2025年4月に開催された大阪万博のパビリオンに阿蘇産の茅が使用され、注目を集めた。



▲茅刈り説明会



▲茅刈り



▲大阪万博の効果